

KSKS

No. 128

23. 12. 28

# ゆいゆい通信



編集人 社会福祉法人 寧楽ゆいの会  
〒631-0823 奈良市西大寺国見町3-5-5  
TEL/FAX 0742-41-6039  
URL <http://narayuinokai.or.jp>

定価 1部50円  
年間 300円

- ◆法人からの報告  
「障がい+高齢で生活どう変わる？」  
理事長 庄野 千恵子 …1
- ◆News  
◇委託相支たむたむ荘 …2
- ◆Reports  
◇ひまわり交流会 …2  
◇居住支援サミット/さわやぎ …3

- ◆Reports  
きらく舎/ぽすと …4  
こもれび就労/こもれび地活 …5
- ◆Information  
天理なんでも相談会 …6
- ◆Thanks  
後援会費納入者 …6

## 利用者60代以上28.5% 障がい+高齢で生活どう変わる？

短い秋から足早に冬に、そして気忙しい師走になりました。ゆいの会も今年度の振り返り作業の準備に入っています。今年度から中期計画に基づいて事業の計画作成や振り返りをすることにしました。事業の目的やあり方については、職員研修やワーキング会議を通して考える機会も設けました。

こうした中で、毎年実施している「ゆいの会利用者実態調査」の今年度の集計結果から利用者像の一端となる項目をあげてみます。

利用者全体では女性は40~50代、男性は50~60代が多く、50.4%の利用者は家族と同居してい

ます。同居の母親の平均年齢は73.6歳、父親は74.3歳です。利用者全体では60代以上が28.5%。高齢化傾向が強いのは訪問看護利用者で後期高齢者医療、介護保険サービスの利用はそれぞれ12.5%で、60代の女性が多いです。また、ヘルパー事業利用者では後期高齢者医療の利用が6.8%、介護保険サービス利用が23.2%で、60代の男性が多いです。

加齢に伴う心身や家族環境の変化や、活動や他者との関わりの減少などは、一般的にも生じることでありますが、障がいとも付き合いながらの暮らしが変わっていく中で、一人ひとりに対する支援のかたちがあるのだろうかと考えます。

平成30年には同一事業所で障害福祉サービスと介護保険サービスの両方を提供することができる「共生型サービス」が創設されています。このようなサービスがあったらいいのでしょうか。具体的な実施計画までには至っていませんが、中高年層が増加する中で、それぞれの年代の生活課題に対して利用者が向き合うことができるよう支援したいと考えています。  
(庄野千恵子)



### 【法人の動き】10/1~12/12

- ◆「ゆいの会のつどい」を4年ぶりに開催しました
- ◆職員の個人勉強会に研修助成しました
- ◆常勤職員全体会で感染症BCPについて意見交換しました
- ◆事故報告1件、苦情1件 ありました
- ◆運営協議会を4年ぶりに対面で行ないました

News

# 委託相談支援事業所 市西部に新設

特定非営利活動法人ふあ〜ちえは2023年10月1日、委託相談支援事業所「生活支援センターたむたむ荘(奈良市学園朝日町)」を開設しました。事業所は就労継続支援B型事業所たむたむ荘に併設されています。市内の委託相談支援事業所は、2023年3月末に相談支援事業所夢が委託相談支援事業を辞め、特定相談支援事業所となって以降は7カ所でしたが、8カ所に戻った形です。

スタッフは2人でうち1人は兼務です。たむたむ



▶ スタッフの刀根さん(右)と谷脇さん

荘のある二名(にみょう)包括圏域は、二名地域包括支援センターを中心に障がい者・高齢者

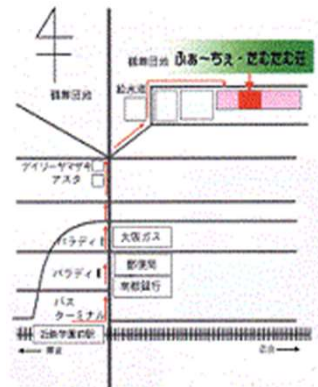
・障がい児の支援機関や弁護士などが集まり、事例検討や情報共有などを行なう支援者のネットワーク会議があります。生活支援センターたむたむ荘には、そうした地域の関係機関とのつながりから寄せられる相談もあるそうです。

特定相談支援事業所としての機能も持っており、障がい福祉サービス利用のための計画相談支援も行なっていますが、「しばらくは委託相談支援事業所として、自らが地域に出向いていくことを優先させたい。相談が来るのを待っているのではなく、支援が必要な人に会いに行き、『地域を掘り起こす』ことを大事にしていきたい」と抱負を語ります。

(慶伊里衣子)

◆生活支援センター  
たむたむ荘◆

奈良市学園朝日町2番6号ハイマート学園前203号  
☎080-9005-5235



Reports

# 5年ぶり五条山と交流会 ～ひまわり～

精神障がいのある人の地域移行について考えるグループ「ひまわり」。久しぶりに五条山病院との交流会を行ないました。まだまだ感染症対策が欠かせないため、10月10日(火)、オンラインで市内の貸会議室と五条山病院をつなぎ、南2病棟とOT室から入院者とスタッフが参加しました。

互いの自己紹介を終え、入院者の人から好きなお菓子を話してもらったアイスブレイクの後、ひまわりメンバー4人が体験談を発表しました。長期入院からの退院後、仕事をしながらヘルパーを利用しながら生活している人、自宅での骨折という危機に落ち着いて対応できた体験談、地域での生活は責任も伴うが自由で、阪神タイガース優勝記念Tシャツをすぐに手に入れられること、障がいがあることで人への感謝の気持ちが生まれたことなどが語られました。病院側の参加者からは、ヘルパーさんにしてもらえること、薬の管理方法などについて質問がありました。オンラインという制限はありまし



◀ ひまわりからはメンバー8人、スタッフ6人が参加も

たが、質疑応答は入院者とひまわりメンバーが画面越しに直接会話できる機会になりました。

五条山病院での開催は対面で行なっていた2019年度以来。入院者からは「自分も退院後にヘルパーを利用しようと思った」「みんな病気を抱えながら頑張ってるんだと思った」、職員からは「退院後の生活のイメージが持てず不安を抱えている方がいるので、とてもためになった」などの感想がありました。

ひまわりでは、交流会のほか、ひまわりメンバーが地域での暮らしについて記事を書いて病院に伝える「ひまわり新聞」を今年度は2回発行予定で、五条山病院と吉田病院で掲示してもらっています。

(江端いづ穂)

Reports

## 分野を超えたつながりを

奈良県では、「居住支援」に関わる取り組みが広がってきています。居住支援とは、低所得者や、高齢者・障がい者など、居住に課題を抱える人(住宅確保要配慮者)に対して、地域で生活の基盤となる住まいを提供することや、健康で文化的な安心できる暮らしを実現するための支援を指します。

11月24日に奈良県立大学で、第3回奈良県居住支援サミットが開催されました。

そもそも低家賃の住宅は少なく、住宅確保要配慮者は民間賃貸住宅において入居を拒否される傾向があります。その背景には、連帯保証人、緊急時の連絡体制が確保できないことや暮らしていく上で一定の生活支援が必要な人もあるという課題があります。

▶ シンポジウムの様子



登壇者の一人、佐藤由美教授(奈良県立大学地域創造学部)は「ただ住宅としての箱物の提供に終わるのではなく、そこで安心して暮らせる生活環境があることが重要。安定した居住を確保するための仕組みづくりと多様な分野の連携に基づく居住政策が必要である」と問題提起。その実現には地域の多様な職種・機関のネットワークが求められていると話され、「連携というのは押し付け合うのではなく、一緒に考えていくこと」としました。

サミットの後半には、身近な地域で顔の見える多機関連携体制が作られている例として、奈良市西部の二名(にみょう)地域のネットワーク参加団体がシンポジウム形式で実践を報告されました。

当日は、不動産分野、高齢・障がいなどの福祉分野、行政など様々な立場から約60人の参加がありました。主催者である奈良県居住支援サミット実行委員会の南部達也さん(社会福祉法人萌)は、「地域で住まいの支援を連携して行なうための関係をどのように構築していけるか。それぞれの立場で困っていることを分かち合い、お互いに理解を深めながら、参加者同士がつながれる機会となれば」と思いを語りました。(和田良介)

## さわやぎ

## たくさんの作品と笑顔とともに ～第23回さっこり展～

毎年恒例となったさっこり展を11月15日(水)～21日(火)まで開催しました。来場者は、49人。多くの人に観てもらいました。

23回目を迎えた今回のテーマは、「いくつもの作品たちをちりばめて」です。テーマどおり、さをり織りや編み物などの作品が所狭しと並びました。今回は、ゆいの会メンバー、ヒロさんの絵画も展示しました。ゆいゆい通信10月号を読んだスタッフの発案から、急遽実現したものです。突然の提案にも関わらず何点か絵画とお土産用のしおりを用意してもらい、素敵な作品がさっこり展をさらに彩っていました。

さっこり展の店番は、2時間ごとのシフト制で行ないました。さっこり展はさわやぎで開催するため、外部への出店などは、緊張して参加が難しいというメンバーも、通い慣れた場所であれば、と店番にチャレンジすることができます。緊張しながらもほとんどのメンバーが店番に携わりました。お客さんから作品の感想をたくさんもらい、店番に入ったメンバー

からは、「お客さんの反応が直接見られて嬉しかった」という声が聞かれました。多くの作品がお客さんの手に渡ったので、次に向けて、早速新たな作品を作っていこうと思います。

また、展示会はさわやぎという場所を知ってもらう機会にもなっています。さわやぎに興味を持ってくれた人が「どんなところかな?」と、展示会を機に覗きにきてくれました。

ご来場いただいた方々、ありがとうございました。(中島美保)



◀ 展示・販売以外に織りの体験コーナーも